

日本GAPニューズレター臨時号

一九七五年
十一月二十八日

米国GAP本部を訪問！

去る十月三十日、私（久保田）の経営するユニバース出版社の米国出張で羽田を出発しました。翌十月三十日（米国では一日遅れる）ロサンゼルスに到着し、ただちにバスでカリフォルニア州を南下、サンディエゴ北方の海岸町オーシャンサイドに宿泊、ここを根城にして三十一日より十一月二日まで滞在し、約六マイル離れたビスタの米国GAP本部（正式にはジョージ・アダムスキー財団）を三日間訪問して大歓迎を受けました。

滞在中は今も健在なアリス・ウエルズ夫人（一九五二年十一月二十日の砂漠における有名なコンタクト事件の六名の目撃者の一人）やアダムスキーに最も長く仕えたマーサ・ウルリッチより長時間に渡ってア氏に関する詳細な事情を聴取し、未公開の貴重な資料やア氏の遺品類を見せていただき、これらをすべてスライドに撮影し、会話はほとんどテープに録音して無事持ち帰ることができました。

またビスタに住むフレッド・ステックリング（文久書林刊「なぜ空飛ぶ円盤は来るのか」の著者）と夫人のイングリッド、本部メンバーの一人でコンタクトティーンといわれていたステューヴ・ホワイティングらにも会い、ア氏に関する重要な情報・資料等を譲り受け、十一月二日にはフレッドの運転する車でパロマ山へドライブし、もとア氏や弟子達が共同生活をしてきたパロマ・ガーデンズを見学、アリスが経営していた喫茶店跡やア氏がみずから建てた物置小屋、水を引くために施設したパイプ等を見てしばし感慨にふけった次第です。ここから二百メートル奥のパロマ・テラセズにはガーデンズから移動したア氏が建てた家が今も残っており、これも見たあと更に奥地の山頂にあるパロマ天文台へ行き、巨大な望遠鏡も見学しました。三日間毎夕本部でディナーのご馳走になりましたが最後の夜は本部に大勢の人が参集して盛大なディナー・パーティーが開かれ、心あたたまるもてなしを受けて、同夜名残り惜しく訣別しました。最後の握手をかわしたときに高年齢のアリスとマーサが涙を浮かべて別れの言葉を述べたときの光景が強烈に胸に焼きついています。

三日には早朝オーシャンサイドを出発、再びバスでロサンゼルスへ北上し、同市で会社の所用をすませ、同夜一泊、翌四日にAA機でニューヨークに飛び、同夜JFK空港へ到着、アメリカーナへ投宿し、五日に市内で会社関係の仕事をすませて、翌六日には宮内温夫氏（日本GAPメンバーでニューヨークの名門ブッシュ・スタジオで唯一の日本人イラストレーターとして活躍中）と合流、デルタ機でマサチューセッツ州ウースターへ直行、空港でア氏の高弟であったアリス・ポマロイ夫人の迎えを受けて、アリスの運転する車で約十四マイル離れたノースボロへ行き、夫人宅を訪問して、ここでも大歓迎を受け、隣家に住む義弟のウィリアム・クック氏宅（アリスの妹であるメリーのご主人）に二泊三日のお世話になり、その間アリスからア

氏に関する重要な情報を伝えられ、各種の資料を見せていただいて多数の写真を撮影しましたが、滞在中はポマロイ家とクック家の両家より存外の厚遇を受けて、ニューヨークランド地方のすばらしい秋の日々をすごした次第です。八日にはアリスの運転する車でボストンへ飛ばし、同市の空港で再びニューヨークへ帰る、十三日まで滞在してその間会社関係の仕事すませた後、大日本印刷ニューヨーク出張所長・福永氏、日本GAPメンバーでグラフィックデザイナーとして活躍中の大西氏らと交流、九日は福永氏の車でロングアイランドにある昔の大富豪の邸宅「オールド・ウエストベリー・マンション」（映画「ある愛の詩」の舞台になった大邸宅）を見学、広大な敷地内の見事な庭園で宮内氏のお姉さんの啓子さんが作られたオニギリをパクつきながら愉快に団らんし、秀才福永氏のアメリカ文化・社会論等を拝聴したり、日本文化との比較論等で大いに語り合い、そのあとジョーンズ・ビーチへ行き、魚釣り場のごった返す中をしばし散策後、夕闇のマンハッタンへ帰って、宮内氏宅で姉君、大西氏らと愉快なディナーを開き、心ゆくまでUFO問題その他について談論風発の一夜をすごした次第です。こうして十三日にJFKを出発、大成功裏に十四日羽田へ帰着しました。

この旅行は会社の出張であるため、社員でGAPメンバーの堀公明君がアシスタントとして同行し、撮影・録音等で活動してくれました。したがって私が現地で見えた貴重な資料類は同君も見ていますし、ビスタのア氏関係者から聞いた話の主要部分は私が通訳して同君にその場で伝えてあり、ノースボロではアリスの話を中心として宮内氏が通訳して同君に説明されましたので、事の次第は同君にもわかっていきます。同君と私とで撮影したカラースライドは約三百枚、ネガカラー約七十枚、白黒複写七十枚と関係者とかわした会話の録音テープ十一時間分はすべて無事に持ち帰って目下整理中です。詳細は十二月に開催予定の日本GAP総会で多数のスライドを映写しながら講演を行います。またアリス・ウエルズその他の関係者の生々しい声も一部分を録音テープで公開いたします。

この旅行で痛感しましたのは、アダムスキーなる人がケタはずれに偉大な人物であったということ。あまりに時代を先行しすぎたために同時代人から容易に認められぬまま世を去りましたが、その業績は不滅となることを信じてやみません。またジョージ・アダムスキー財団は高齢のアリスとマーサをフレッド夫妻とステューヴがよく援助して立派に運営されています。今後も続行されるものと思えます。

この旅行が大成功裏に終わったことについて創造主及びブラザーズに感謝し、また絶大なご援助をたまわった現地の関係者の方々、激励とご協力を寄せら

来たる十二月十三日、恒例の本年度総会を左記の要領で開催いたします。今回の米国GAP本部訪問の際撮影したア氏関係の貴重な写真を多数のカラー・スライドにより映写公開しますので、万障お繰り合わせの上、ご参加下さい。

日本GAP総会のお知らせ

- 1、日時 十二月十三日（土曜日）午後二時より六時まで。
- 2、会場 上野公園内、東京文化会館四階大会議室
- 3、会費 一〇〇〇円（当日、受付でお納め下さい）
- 4、講演とスライド映写 「米国GAP本部を訪問して」久保田八郎二時より五時まで。主要スライドはアダムスキーがローマ法王ヨハネ二十三世から授与された黄金のメダル、ア氏が常時着用していた謎のクリスタル・ペンダント、ア氏の遺品類と寝室、事務室。屋内外の光景、アリス・ウエルズ、マーサ・ウルリッチ、フレッド・ステックリング、夫人イングリッド、息子のグラン、ステューヴ・ホワイティング、オーソンの等身大肖像画、金星のシンボルマーク、月面のガッセンディ・クレーターの人工トンネル、パロマ・ガーデンズの小屋、ビスタの風景、アリス・ポマロイとその家族、ノースボロの風景、宮内温夫氏その他のの方々、その他多数。

5、質疑応答 五時より六時まで。以上※会場は八十人分の椅子席しかありませんので、それ以上は立見席となりますからご了承下さい。非会員の入場はお断り。

ニューズレター第57号、発刊準備中

第57号の発行が遅れて申し訳ありません。弁解がましいようで恐縮ですが、一回の発行資金に約三十万円を要するため、この資金がたまるまでは出すわけにゆかず、斯くはご迷惑をおかけする次第ですが、次号の資金もやっとならましましたので目下原稿を作成中です。米国GAP本部訪問記を掲載の予定です。ご期待下さい。十二月の月例研究会は総会に振替えて中止します。

GAPニューズレター臨時号

一九七五年十一月二十八日発行
編集発行人 久保田八郎
発行所 日本GAP
〒133東京都江戸川区本一色町365-1818
振替東京4135912（久保田八郎名義）
会員間無料頒布



久保田とアリス・ウエルズ
この旅行が大成功裏に終わったことについて創造主及びブラザーズに感謝し、また絶大なご援助をたまわった現地の関係者の方々、激励とご協力を寄せら